



「環境配慮行動が自然と出来る人」100%社会

グループ名：チームESD

メンバー：小林 秀昭、小林 友梨亜、寺島 慎二、星河 重仁

チューター：神本 祐樹、西田 美紀、藤井 芳一

現状の把握

愛知県環境教育の現状

- ◇あらゆる層で開催されているが、実践につながっていない。
- ◇生産年齢人口向けが少なく、愛知県から市町村への働きかけが弱い。
- ◇市町村が開催する環境教育は“点”の成果にとどまる。

足元課題

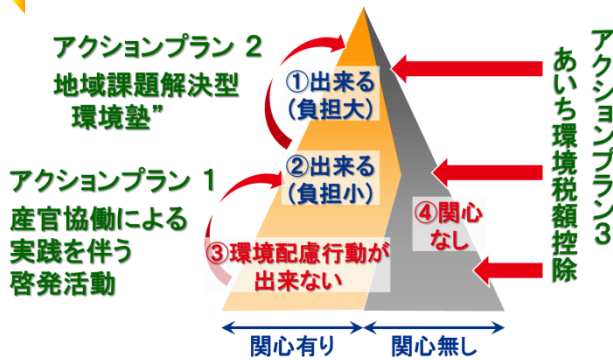
- 1) 文化を形成するボトムクラスの育成
- 2) 地域課題の解決に取り組むことが出来る人材の育成
- 3) 環境配慮行動を定着させる仕組みづくり

(「愛知県環境学習等行動計画の評価について」愛知県実施調査結果より分析)

参考のモデル

広瀬(1994)「環境配慮的行動と規定因との要因関連モデル」

提案の内容



20年後に向けての提言の概要



提案実現のための具体的な取組 (アクションプラン)と実現可能性

1) 産官協働による実践を伴う啓発活動



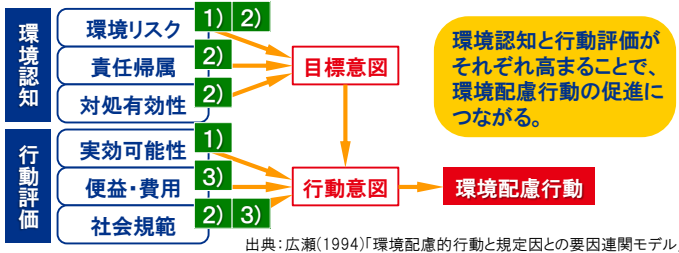
2) “地域課題解決型 環境塾”の開催



3) “あいち環境税額控除”の導入



アクションプラン実現により見込まれる効果



出典：広瀬(1994)「環境配慮的行動と規定因との要因関連モデル」

波及効果

“文化”を形成する人材の育成 → “持続可能な社会の実現”につながり、
課題を解決出来る人材の育成 → 環境配慮行動が“文化”として根付く

税額控除施策

※対象や運用を変化させ、環境配慮行動を普及、定着させることが可能。